

日本における安産祈願と腹帯の関係

—奈良県帯解寺の事例から—

Prayers for Safe Childbirth and the Wearing of Belly Band in Japan

-A Case Study of the Obi Toke Temple

○笹谷絵里¹⁾・川合征男²⁾・葦原佐衣¹⁾・幾嶋祥子¹⁾・上原麻利¹⁾・前川理恵子¹⁾・熊谷江利子³⁾・菅修一⁴⁾

Eri SASATANI, Ikuo KAWAI, Sae ASHIHARA, Yoshiko IKUSHIMA, Mari UEHARA, Rieko MAEGAWA,

Eriko KUMAGAI, SUGA Shuichi

¹⁾ 天理大学 ²⁾ 無所属 ³⁾ 訪問看護ステーションひなた ⁴⁾ 花園大学

¹⁾ Tenri University ²⁾ Independent ³⁾ Visiting Nurse Station Hinata ⁴⁾ Hanazono University

Key words: 安産祈願, 腹帯, 習俗, 信仰

目的

本稿の目的は、産科の技術が確立し、医師や助産師など医学や医療技術を持つ専門職が出産に立ち会うことが当たり前の中、安産祈願や腹帯の着用が習俗・信仰として、現在においても確立している理由を帯解寺の事例から明らかにすることである。

日本では、妊娠5カ月の「戌の日」に社寺のお祓いを受け、腹帯をお腹に締める習俗である。これは、古代からの日本独特の習慣であると言われてきた。また、腹帯祝いの起源について、『古事記』や『日本書紀』によると、神功皇后が産気づいた時、腹帯に小石を挟んで陣痛をしずめ、その後、無事に元気な男の子を出産したとの話がある。これが腹帯の起源と関連していると考えられている。腹帯の意義に関しては、「帯」を締めることで、妊婦の安全だけではなく胎児の靈魂を安定させることができると考えられてきたことなどが指摘されている（鎌田他1990）。このように天皇家といった、当時から身分の高い人々と腹帯と安産祈願は密接に関係している。そこで、文徳天皇妃である染殿皇后が帯解寺に祈願し、無事安産されたことに由来を持つ奈良県の帯解寺を事例に安産祈願と腹帯の着用意義について考察したい。

方法

研究方法として、安産祈願先として篤く信仰を受けている奈良県奈良市の帯解寺を事例対象とし注目する。さらに、帯解寺への訪問調査から帯解寺の創建の歴史とその由来、妊婦が安産祈願や腹帯を受けるためにこれらの特定の社寺を選んで訪れる理由を明らかにする。併せて、資料から、医学や医療的視点から見たときに腹帯はどのように考えられてきたのかを検証したい。

結果

奈良県、安産祈願、帯解寺の概要： 帯解寺は、弘法大師（空海）の師である、勤操大徳が開かれた巖瀬寺というお寺の塔頭の一つであった。およそ1200年前、第55代文徳天皇の妃である染殿皇后（藤原良房公の娘）が帯解寺の地蔵菩薩に祈願したところ、懐妊し、次代の天皇となった清和天皇を無事安産で出産した。このことを、

文徳天皇は大変喜び天安2年（858年）春に伽藍を建立され、「無事に帯が解けた寺」、帯解寺（おびとけでら）と名付けられた。以来、帯解寺安地蔵と呼ばれる帯解寺の御本尊様は、広く信仰を集めることとなった。江戸時代には、帯解寺で祈願したお江の方が3代将軍家光公を、お楽の方が4代将軍家綱公をそれぞれ授かり、無事に安産されたなど徳川将軍家からも篤く信仰された。近年においても、天皇家の懐妊に際して、宮内庁より選定され、安産祈願法要を修し東宮御所よりお礼状を賜っている（帯解寺2024）。

腹帯は江戸時代中期に書かれた産科の啓蒙書である『産家やしない草』において産後の腹帯の着用についてすでに疑義が呈されている。さらに、2011年の母性保護に係る専門家会合においても、報告書から「腹帯」は削除されるなど、その着用意義については科学的根拠がないとされる。

考察

帯解寺の安産祈願を見ると、古来より日本において、最善で最良の医療を受けてきた天皇家や徳川家の人々が安産祈願を行っている。これは、当時の最善で最良の医療を受けられる人たちであっても、無事に出産し母子ともに生存することが難しいという「出産」というものが医学や医療技術、さらには専門職の力のみでは解決できない点にあることが要因として考えられる。現代においても、出産は命がけという側面はぬぐえない。対人医療職が専門知識を持ち医療技術を用いても助けることができない可能性を少しでも排除したいという妊婦とその家族の思いが、安産祈願や腹帯の着用として習俗・信仰として大切にされていると考える。

引用文献

- ・鎌田 久子・管沼 ひろ子・坂倉 啓夫・宮里 和子・古川 裕子（1990）『日本人の子産み・子育て—いま・むかし—』勁草書房
- ・帯解寺 奈良 安産祈願
(<https://obitokedera.or.jp/20240927> 取得)